

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 東成区

学 校 名 北中道小学校

学校長名 剣持 明広

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・北中道小学校では、第6学年 25名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科においては大阪市平均を4ポイント下回った。算数科においては大阪市平均を4ポイント下回った。理科においては大阪市平均と同一であった。平均無回答率は、いずれも全国平均を下回り、粘り強く問題に取り組もうとする姿勢は身についていると考えられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「B書くこと」、「C読むこと」が大阪市平均よりも低い結果となったが、昨年度の全国平均との差と比べると「B書くこと」では3.5ポイント縮まり、「C読むこと」は2.4ポイント縮めることができた。まだ課題は残るものの、令和2年度より研究教科を国語科とし、研究テーマを「思いや考えを伝え、学びあう児童の育成」として据え、文学的教材文に絞って授業研究を進めてきた成果が徐々に出ていていると考える。

〔算数〕

「変化と関係」では大阪市平均を0.6ポイント上回ったものの、他の領域は下回る結果となった。特に「図形」については6.3ポイント下回っており、課題が大きい。今後は、さらに算数的活動の充実を図るとともに、継続して基礎基本の学習の定着を図っていく。

〔理科〕

「『生命』を柱とする領域」では、大阪市平均を1.7ポイント上回り、「『地球』を柱とする領域」では、3.8ポイント上回った。これらB区分の領域に関しては、全国平均に迫っているため、今後はA区分の領域に注力していく。

質問紙調査より

「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国平均では73.1%大阪市平均では72.2%に対し、本校では84%にのぼり、本好きな子どもたちであることがうかがえる。また、「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」に週3回以上やほぼ毎日と回答した割合は、全国平均では43.9%大阪市平均では23.2%に対し、本校では72%にのぼり、調べ学習において一人一台端末をかなり活用している状況にある。

一方、昨今のコロナ禍の影響もあってか、「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的な回答は、全国平均では79.8%大阪市平均では78.2%に対し、本校では60%に留まっており、将来に期待の持てる取組を含めたキャリア教育の必要性がうかがえる。

今後の取組(アクションプラン)

- ・大阪市の学力向上支援チーム事業を活用し、スクールアドバイザーによる国語科の授業改善に向けた実践的指導を継続して受けているところである。これらの力は短時間でつくものではなく構築していく必要があるため、今後も継続した取組を行う。
- ・北中道スタディ（自主学習）の取組を今後も継続し、意欲的に学習に取り組む児童の育成を進める。
- ・学力につながる基盤として、子どもたちが日々の学習活動にやりがいを感じ学校生活を楽しめるような学校運営を重視する。
- ・今後も継続して子ども達が自分の考えを持ちそれを表現できる場の設定を取り入れた学習活動や学校行事を計画する。
- ・教員の人間性・資質の向上となるような研修を行い、子どもたちに還元していけるようにする。
- ・学校協議会、学校ホームページを充実させ、教育成果や子どもの様子を地域や保護者に発信し、共有できるようにする。